



会員数 30人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 196

令和4年10月号

2022. 10. 18

人生100年時代～松本清張さんに学ぶ!～

市立松本清張記念館館長 古賀厚志

今年の4月に松本清張記念館館長として就任し、約千篇ある作品を1日1冊読もうと決め、今200冊目を読んでいる。そこで、没後30年になる清張の作品と人生100年時代についてお話をしたい。

清張は明治41年、現在の小倉北区篠崎に生まれ。15歳で板櫃尋常小学校(現清水小)を卒業後、すぐに働き始め文学への目覚めを封印して40歳まで生活のため働き続けて来た。27歳(昭11年)に結婚し、34歳で朝日新聞西部本の正社員となったが、記者ではなく広告の図案家として活躍。35歳で入隊もしたが1年で朝日新聞社に復職している。



41歳(昭25年)の時、8人家族のため賞金目当てで週刊朝日に応募した「西郷札」が3等に入選し、直木賞候補に。その3年後に、「或る『小倉日記』伝」でなぜか芥川賞を受賞して、一気に作家として花開いた人である。若い頃文学への夢を封じて、独学でデザイン、絵、書、英語、古代史、民俗学等幅広くかつ深く学んでいる。生涯にわたって「旺盛な好奇心」と「飽くなき探求心」を持ち、ジャンルを広げて行く人であったという。

55歳からは海外へも目を向け、81歳まで取材旅行をして作品を生み出している。「時間がない。書きたいことがたくさんある」「瑞々しい作品を書きたい」と意欲にあふれていたという。

作品は約千篇、著作は750冊で映画化、ドラマ化された作品も数多い。他のミステリー作家との違いは、背景の動機や時代背景にリアリティがあり、今読んでも輝きを失っていない。55歳の時、長者番付で初めて1位となり、生涯1位が12回あり、子どもたちに「スゲーなあ」と言わせる存在でもあった。

ニューノーマル(新常態)の現代、生涯現役だった清張さんの生きざま、人となりに学びながら、ウィズコロナ、人口減少、人生100年時代を考えてみたい。以前、デビット・ハミルトンの著書「親切は脳にきく」が話題になった。「情けは人の為ならず」で、人を褒める・声をかける・ボランティアをする等は脳を活性化させるという。①自分自身が幸せを感じる ②血管・心臓が強くなる ③アンチエイジング ④良好な人間関係 ⑤親切は伝播する 等により、結局は自分の健康寿命を伸ばすことになるのである。

また、地域貢献や就労等で生涯現役であったり、次世代育成のための支援等も行い、人生を楽しみながら、生きて下さい。と……。続いて、ご自慢のオカリナで「ふるさと」や「大きな古時計」等演奏され、会場を暖かな空気で満たして話が終わった。清張の作品世界と人生100年時代に生きる私たちへの示唆に溢れるお話だったし、清張が100歳まで生きて、新しいジャンルの小説を披露して欲しかったなあと思っている。(内藤)

9月例会報告

体調不良のため、しばらく休んでいた中山会員によるストレッチ体操が復活、やはり最初に少し体を動かしたほうが、和やかだ。9月誕生日会は松本会員と松永会員が対象、記念品贈呈のあと、それぞれに誕生日を迎えた心境などを語った。卓話は「人生100年時代～松本清張さんに学ぶ」の題目で古賀厚志・松本清張記念館館長が松本清張の人生を紹介、最後に特技のオカリナの見事な演奏を披露した。

卓話の後は、松本会員が10月6日に行う到津の森公園での植樹祭を案内、参加を呼びかけた。委員会報告では整理統合された3つの委員長が無事に初回の会議が終えたこと等を報告、同好会報告では次々と各世話人がイベント説明、コロナ禍で活動が停止していたころが嘘のような感じを受けた。ショートスピーチは植田会員が音楽用語を題材にイタリアでの失敗談などを面白、おかしく語り、いつも通りプロバスの歌を全員で歌い、散会した。(安高)

例会委員会

10月4日 12名出席

湖月堂にて17時30分から例会委員会を開催した。議題は卓話に関して10月～12月の3か月間の卓話講師と内容についての確認である。卓話内容について、講師との打ち合わせ時の希望や要望などの意見が出された。他にショートスピーチ、受付要員、例会司会進行の確認も行った。

また、今回例会委員会の担当になった新年会の企画、司会進行について、時間をかけて協議した。次回の委員会でも継続協議することとした。

(大石)

交流委員会

9月13日 10名出席

湖月堂で17時30分より開催。誕生したばかりの新委員会で、やや緊張の船出です。まず、副委員長に古賀えみ子会員を選任。これからはイベント毎に各委員にリーダーを依頼し、全員参加を考えています。続いて、古賀靖子会員より誕生カードの説明を受け、担当を決定。

目指すは、前向きで活発な討議⇒元気でいきいきのプロバスクラブをアピール⇒入会の環境づくり、と3つのサイクルです。そのために討議は大歓迎ですが、互いにリスペクトしあい、寛容の精神で会を盛り上げて頂きたい、と委員長の要望として各委員に伝えました。

今回は全委員の参加を期待し、順風満帆に航海出来ることを祈念しています。

(近藤哲生)

広報委員会

10月7日 10名出席

12時30分からホテルテトラ北九州で開催。昼食を手短かに済ませ、先ず「つながり11月号」の編集会議を資料に添って進めた。

本日のメインは「Link 23号」の初校を全員で取り組むことである。表紙、目次とはじまり、ページごとに様々な指摘がなされ、時間が矢のように過ぎていく。3時過ぎに珈琲タイムをとり一息入れる。そこからラストスパートを掛けて、なんとか終了までこぎつけました。皆さんお疲れ様でした。そして、ご苦労様でした。(内藤)

ありがとうBOX 寄金

会員の善意で積み立てられた「ありがとうBOX」寄金を生かすため、10月4日に三役で戸畑区の母子寡婦福祉会と、若松区の児童養護施設「若松児童ホーム」を訪問。ありがとうBOX 寄金

の中からそれぞれ3万円を寄贈した。

母子寡婦福祉会では薮田信代理事長が、児童ホームでは永井千利理事長、松本祐子施設長が応対。贈呈式のあと、「大切にに使わせて頂きます」との謝辞を受けた。(安高)



ありがとうBOX 寄金 ～到津の森にミモザを植樹～

毎年恒例、到津の森公園への植樹が、今年も10月6日園内で行われ、集まった会員14名が、それぞれ芝生公園仮植えされた高さ約2メートルのミモザの木に、スコップで土をかけ植樹した。

植樹に先立ち、植田会長が「来春にきれいな花が咲くのが楽しみ」と挨拶。今年4月園長に就任したばかりの梅崎淳一園長が「これまで長きにわたって植樹された花木が咲き乱れ、園を訪れる皆さんに馴染んでいただいています」と挨拶した。

この日植樹したミモザの木は、来年3月には3～4メートルに成長して美しい花を咲かせ、引き続いて私たちの植樹してきた枝垂れ桜も満開になるという。

なお、この日の植樹の様子は、同園のホームページに初めて掲載されました。(松本)



留学の思い出・フェルマータ

植田佐世子会員 No.65



小中学の頃から音楽への関心が強く、当然音楽用語(記号)の把握にも集中した。その一例としてフェルマータ(音楽記号)は、日本では専ら延長記号として理解されていた。(なお、音楽用語はイタリア語が基準となっている) ところで留学の時代、様々な言葉にニュアンスの違いがあるにせよ、このフェルマータを「延ばすのよね」といっても通用せず、全く逆の停止を表す言葉として用いられていたことはショックであった。この言葉の混乱をイタリア人から、からかわれた思い出には強いものがある。(参考までに路面電車やバスの停留所もフェルマータの語が用いられている)



(筆者注) 岩波小辞典によれば、フェルマータは延音を指す。しかしコーラル(独唱合唱)では音を切ることを指す由。ともあれ植田さんの留学時代の思い出の一つが紹介された。(竹原英作)

♡同好会活動報告♠

今年も馬場山で栗拾い楽しむ

「風の会」が企画した栗拾いが今年も9月16日、八幡西区馬場山の原田栗園で行われた。昨年初めて実施したところ大好評で、リクエストに応えた。参加したのはプロバスの会員15名とその家族、友人らを含め20人。

午前11時、分乗した参加者が栗園に集合。

簡単な説明を受けた後、大石、近藤、安高の“若手”男性3氏が長い竹竿で栗をたたき落とし、みんな靴などでイガを取り除いて結構立派に育った栗の実を拾い集めた。楽しかったのは、栗拾いだけではない。お昼にお弁当を分け合ったり、原田栗園さんからゴーヤ、ピーマン、ナスビ、ユズ等もいただき、大満足。最後は記念写真を撮ったが、「来年もまた来たい」との声も。(松本)



🎤 カラオケ同好会

9月9日18時から、いつものコロッケ倶楽部で9名参加の開催です。それぞれ自分の持ち歌の「雪国」「小樽運河」「河内男節」などを披露しあい、有意義な楽しい時間を過しました。次の回が楽しみです。カラオケの好きな方奮っての参加お待ちしております。(安河内)



🎵 歌をうたう会

9月28日から練習日が第4水曜日に変わったことで、新たに仲間が増えて8名になり、とても嬉しいです。始めに身体をほぐし、腹式呼吸で脇腹に息を入れることを確かめて歌います。今練習中の曲「芭蕉布」は沖縄独特の音階と方言の歌詞でなかなかの難曲ですが、歌詞を理解し、音を一つ一つクリアしながら前進あるのみです！もう一曲「ハッピーバースデー」のハーモニーを練習。来年1月の誕生会にはご披露したいをと思います。(近藤弘子)

1年2か月ぶりに歴史文学講座再開

講師不在、コロナ禍等で令和3年7月開催以来長らくお休みしていた歴史文学講座は、1年2か月ぶりに活動を再開、9月27日(火)午前10時から松本清張記念館で講座を開催しました。

講師は同記念館学芸担当主任(古代史担当)の中川里志先生で、松本清張の歴史研究を通じて日本の古代の姿を浮き彫りにしようというものです。

毎月第4火曜午前10時から約2時間、12月までの4回、同記念館で行われます。再開時の登録会員は11名、4月19日の例会後の集まりで、世話人だった竹原英作さんが体調不良で辞退、代わって私・松本が指名され、副世話人には安河内幸子さんが再任されました。(松本)



山あいの月

近藤弘子会員

No.67

今年の中秋の名月は満月と重なり、とても綺麗な月でした。そして格別のお月見になりました。友人からK邸でのお月見に誘われたのです。K邸は山あいであり、月の出は遅いため食事とお喋りをしながら待ちます。今か今かと空を見上げ、8時前縁側から「出た出た」との声。揃って庭先に出てようやく姿を現した月を眺めながら、時折かかる薄雲に見え隠れする度に一喜一憂です。『めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に雲隠れにし夜半の月かな』澄んだ空気の中、東の間の山間の月はいつにもまして貴重なものに思え、厳かな気分さえなるひとときでした。『月見れば千々にもものこそ悲しけれわが身一つの秋にはあらねど』月を眺めると感傷的になるのは平安時代も今も変わらないのでしょう。元は貴族の楽しみだったお月見が、収穫の感謝を表す行事になったと聞きますが、この日玄関に設えられたススキの他は、お供えより専ら自分たちのお腹を満たすという楽しいお月見になりました。花見、月見、次は雪見？その前に紅葉狩りがあります。口実には事欠きません。



9月の誕生！

おめでとうございます(敬称略)

松本 忠(23日)

松永 光代(25日)



ありがとうBOXメッセージ9月分 (五十音順、敬称略)

★今日も例会出席出来ました。(遠藤) ★台風一過。年令進行。心中穏やか。(大川) ★台風の影響も思った程ではありませんで何より。一部の方は被害にあわれ、お見舞い申します。(古賀靖子) ★台風一過。皆様お変わりなく何よりでした。(近藤哲生) ★台風一過。オカリナの音色に心も癒されました。(近藤弘子) ★台風も無事過ぎ去ってくれてやれやれです。(柴村) ★ありがとう。(住) ★コロナ禍、猛烈な台風の襲来と押し寄せる試練に負けないで！(住吉) ★台風一過、ほっとした例会日です(竹原) ★健康第一(中山) ★台風過ぎて今日は爽やかな一日ですね。(橋本) ★(神田) ★(洞) ★感謝(松永) ★(松本) ★(眞鍋) ★秋の気配を感じます(安高) ★台風14号が列島縦断。1年くらいは外してよ(吉田信雄) ★台風の被害もなく健やかに参加できました。(吉田秀子)

収支報告

8月末残高

154,063 円

9月分収入(例会)

10,503 円

9月末残高

164,566 円

「ショートスピーチ」「ミニ随筆」のNo.がズれておりました。この号から正しいNo.で掲載いたします。